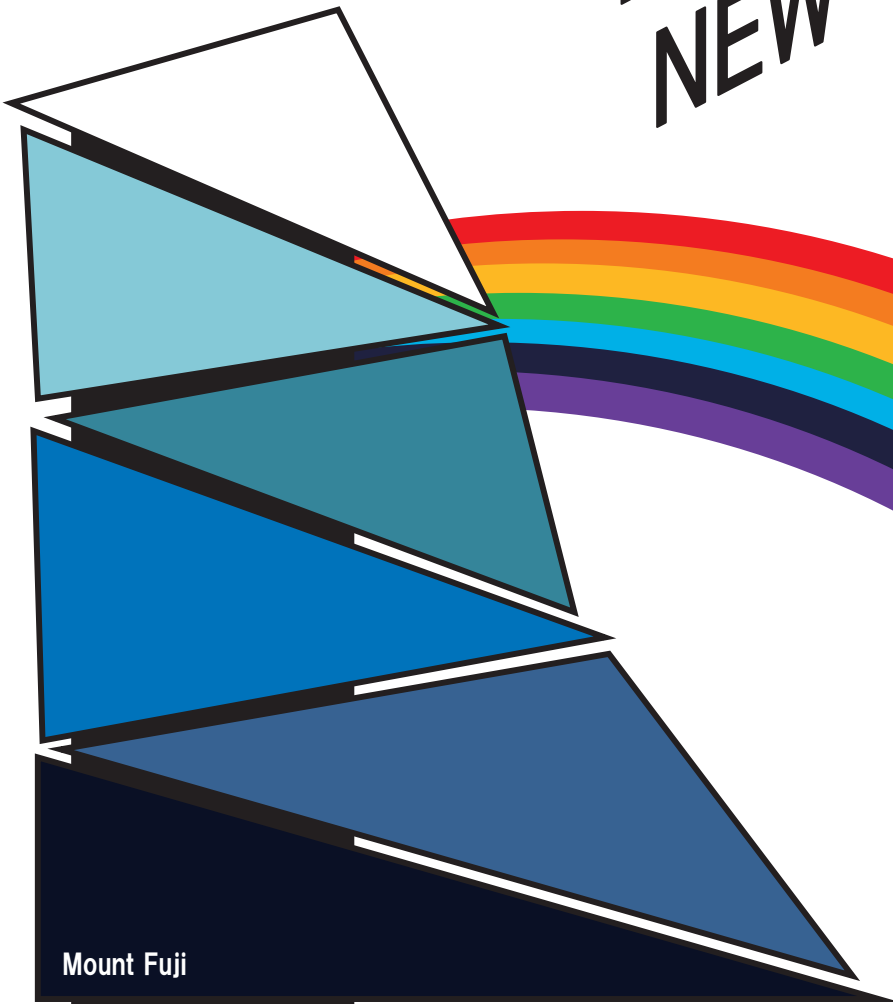


風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



HAPPY NEW YEAR 2017!



Mount Fuji

【2017年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センターより	P 3
◇特集<地域支援について>	P 4・5	◇自閉症について	P 6
◇ヘルパー便り・グループホーム便り	P 7	◇後援会のページ	P 8

新年のご挨拶

理事長 政野 光廣

新年あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、皆さまには新たな気持ちでご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。昨年は社会福祉法人風の谷に多大なるご理解とご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、寛容という言葉を大切にしなければと思わされた世相でした。EUでの難民問題や、アメリカでの大統領選、国内もまたしかりです。自分の意に沿わない事柄、人達は敵と見なして排除する風潮が広まりつつあるようです。もう少し人の心に寄り添って思いを巡らす柔らかい心をとせずにはいられません。

また、ご存知のように相模原においても痛ましく、何とも言いようのない津久井やまゆり園の事件が起きました。私達の多くの知人が恐怖と悲惨な事件に巻き込まれました。津久井やまゆり園はやまびこ工房でも多くの人達が利用してきました。親の病気、交通事故など短期入所での利用など、この地域には無くてはならない中核の施設です。事件当時も多くの知人がやまゆり園で生活していました。当時の彼らの恐怖や混乱を思うとき何ともやりきれない思いです。被害に遭われた方々が一日も早く安定した生活が確保されることを願うと共に、犠牲になられた多くの方々に、心よりのご冥福をお祈りいたします。

県及び指定管理者の対応検証と今後の再発防止策を目的として設置された第三者委員会の報告では指定管理者の県への報告が無かったなど不適切な対応が指摘され、また、県に対しても状況把握や情報の共有化不足などが指摘されました。その上で日頃から指定管理者からの情報提供や相談が容易に出来る仕組みの構築が必要と報告されています。

私達の法人においても、緊急時の安全対策を確認すると共に、日頃より相模原市との情報共有化、相談を進める必要があります。職員と一丸となって危機管理対策、安全対策を徹底していきたいと思えます。

それと同時に私達にとって大切なことは、やまびこ工房と近隣地域などとの開かれた交流、関わり合いの推進にあると思えます。自閉症者作品展への出品、協力や恒例の地域交流バザー開催、会報VIEWの発行などの一層の推進を図り、障害者や障害者施設に対しての偏見のない情報と支援を社会に広くいきわたらせる努力をしていかなければなりません。

本年度も風の谷の運営は原点である「利用者の一人々に寄り添ったきめ細かな支援」の充実を推進するべく、職員と共に各利用者の支援を確認し合い、利用者満足度の高い法人、施設運営を目指したいと思います。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心からお祈りいたすとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今年も開催！地域交流バザー♪



【日程】平成29年6月4日 日曜日（予定）

詳細が決定次第、ホームページにてお知らせ致します。

【会場】やまびこ工房（相模原市中央区田名7236-3）

★皆様のご来場、心よりお待ちしております★

相模原自閉症支援センターより

相模原を中心とした地域生活の支援体制のバランスが崩れている。それは、昨年7月の津久井やまゆり園における事件が発端である。入所者の異動先は確保されたようであるが、同園の担っていた役割はそれだけではない。短期入所サービスも提供され、地域での生活も支援されていたのである。それが現状受け入れ中止の状態、数年は実施されないことと思われる。

どのような利用の仕方をしていたかという、例えば、ご家族が入院した時や、行動障害などがあり常時見守りが必要でご家族などの支援の根幹を担う方のレスパイトの時や、行動障害が激しくなってしまうご家族や関係する支援機関が困窮してしまい、ご本人に対する再アセスメントを行い、支援を立て直す時に利用されていた。この年末年始も例年なら利用されていた方もいたのである。大概の通所施設は、休所の時期である。1週間ご家族が支援を担うのは難しい家庭もある。にも関わらず利用できない。当センターの利用者については、完全に支援はできないものの、支援者の協力もあり、行動援護サービス等の支援により地域生活を送るための最低限の調整・支援は行えたと思う。しかし、支援者にかなりの無理を強いた。当センターのサービスを利用していない行動障害の方はどうなのだろうか？明らかに地域生活をする上での相模原市周辺の支援体制のバランスが崩れてしまっている。

実際、他の事業所を利用されているお母さまの相談を受けた。年末年始10日ほどの休みがあって、どうしたものかという。困窮されているのだろう。事業所は休み過ぎだと言われていた。本人の意向に寄り添い、外出したくても体力的に難しいのである。かと言って家の中で過ごすには限度がある。するとストレスから自傷や他害、物損に至ってしまう。

これは地域における課題として、津久井やまゆり園の担っていたサービスを提供できるように相模原市を中心とした市町村が予算を立てて、遅くとも来年度早々には、実施できるように動いてくれるものと考えてしまう。しかし、そうではないようだ。今、行政主導で動いているのは、高齢者施設や障害者施設の防犯対策である。確かにその方が多くの方の不安やニーズに応えてくれていて、公的な助成で防犯カメラを取りつけてくれるのは有り難い。

だが、これでは、今回の事件の犠牲になった方は、浮かばれない。犠牲になった方の中には私達が支援している重度の知的障害を伴う自閉症者もいたはずである。自閉症の障害特性の一つとしてコミュニケーションの質的障害が挙げられる。意思疎通ができないコミュニケーション障害ではない。コミュニケーションの方法を本人に合わせて行わなくては、コミュニケーションが難しい障害である。大概、私達の教育指導方法は、社会に順応していくことが求められ、それができる能力を持っているが、自閉症者はそこに障害があるのである。できないことを無理強いされれば、誰でも何かしらの問題を来す。自閉症者の場合は自傷や他害、行動停止、物損に至ってしまう。しかし、本人にわかりやすい提示の仕方や環境設定（バリアフリー）にすれば、そのような問題は起きないのだ。今回の事件は障害者の多様性や固有性の理解がないことに尽きる。福祉や教育関係者は、自閉症理解をしているものと考えがちだが、そうではない。むしろそのような立場の者の無理解が行動障害を生み出し、状況によっては入所生活を余儀なくされている。

どのような障害があろうとも高齢になり体の機能に支障を来しても本人らしい生活をする権利があって、ご本人が自分でよかったと思える社会を目指すことは、あくまでも建前であって綺麗ごとであって不可能に思えてしまう。それでもそれに挑戦し続けることが犠牲者の全うできなかった人生に報いることと思う。(薬師丸)

地域支援について

グループホーム事業

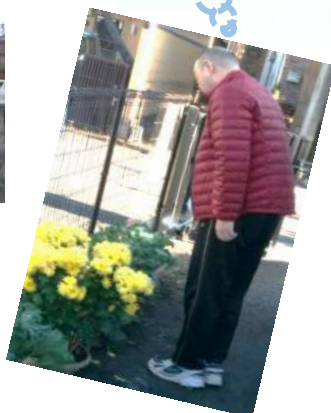
ご家族と暮らす機会を保ちながらホームでの生活を行う、週末帰宅型のグループホームを行っています。

ゲームや工作、お花のお手入れや季節の野菜作りなど皆さん好きな活動を楽しんでいます。

綺麗な花が咲きました。



ナウシカ 2001年開所



社会福祉法人風の谷は

多様な福祉サービスが自閉症を伴う利用者一人一人の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、自閉症を伴う方々が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的としています。

『地域生活』一言で説明できない難しい言葉だと思いますが、みなさんが地域で「自分らしく」暮らしていくことと思っています。1998年にやまびこ工房が開所し、利用者さんと私たち支援者が一緒に過ごしてゆく中で必要なことが見えてきました。そして契約の時代になり福祉サービスも増えました。その中で支える仕組みを作ること、また続けることがとても重要と考えます。一人一人を多面的にサポートし豊かな生活を目指して、まだまだ試行錯誤の風の谷です。今回は地域生活を支える風の谷の事業を皆さんに知ってもらえたら……と思います。



やまびこ工房 1998年開所



第二やまびこ工房 2015年開所

ガイドヘルプサービス事業

カラオケや食事などのお好きな活動を楽しんでいただけるようにプランを作成し、ヘルパーを派遣しています。



移動介護サービス

2006年開始

短期入所事業

地域での暮らしを継続するためにも、通所しながらご自宅以外で過ごせる場所を提供しています。ご家族の病気や緊急時の受け入れなども行っています。



短期入所 2008年開所

相談事業（相模原自閉症支援相談室・相模原南自閉症支援相談室）

障害のある方が豊かな社会生活を営むことが出来るよう地域生活への移行、定着に向けた支援、

それから福祉サービスなどの利用計画の作成を行っています。

また、相模原南自閉症支援相談室は第二やまびこ工房にあります。



生活介護事業（やまびこ工房・第二やまびこ工房）

個人に合った自立課題や受注作業、自主製作活動をしています。できた自主製作品は6月の地域交流バザーや11月のやまびこ会作品展で販売しています。またJA「ベジタベーな」での常設販売もあり、毎週利用者さんが支援者と一緒に納品に出かけています。最初は未経験だったので利用者さんの中に戸惑いがあったかと思いますが、今では慣れてきて複数の利用者さんと納品しています。

風の谷での役割、地域での役割…大切にしたいと思っています。

「ベジタベーな」に颯爽と納品です！



自主製作品のアイロンビーズ製作中！



相模原自閉症支援センターは短期入所やガイドヘルプサービスをやってるよ！



いくつかの研修に参加して ～自閉症への理解～

4月からやまびこ工房に来て、あっという間に新しい年を迎えました。日々自閉症の利用者と関わる中で、喜怒哀楽をともにしながら、支援員として充実した毎日となっています。しかし、悩むこともたくさんあります。皆さんによりよく生活や活動をして頂きたい、持っている力を発揮してもらいたい、安心できる場となってほしいと思いながらもうまくいかないことがあります。そのような時に研修という機会は、何か問題や課題が起こった時の考え方や支援の方法について一度立ち止まり考え、大きく深呼吸する場になっているように私は感じています。

9月に参加した神奈川県強度行動障害支援者養成研修では、自分の体を傷つけてしまう自傷や他人に怪我をさせてしまう他害、あるいは生活に支障が出てきてしまう程の行動の停止などの行動障害を有する方を適切に支援する為の手法を学びました。私たち支援者は、その利用者が抱えている課題や問題と思われる行動の表面だけを見て、対応に終始してしまい一時的にその行動が落ち着くことはあっても、課題や問題の背景を考えていかないと、また違うかたちで表出してくることがあります。それを、氷山の水面上の氷に見立てて冰山モデルと言います。水面上の氷をとってもまた水面下の氷が出てくるからです。また、自閉症の基本的な理解を学んでいかないと、誠心誠意支援するだけではうまくいかないとこの研修で実感しました。

一方、強度行動障害研修と異なった視点で自閉症の理解を深められる研修が相模原ではあります。それが、相模原自閉症講座のTAKAMURA'S2000の笹先生と、さがみはら寺小屋の角田先生の研修会です。自閉症者は、平和主義者だという信念に裏付けされた研修のように思えます。私たち支援員は、利用者にとって統一した支援が大切という視点から、色々な意味で枠組みやかたちから入ろうとします。主役はご本人たちなのに、ご本人が出来ることや出来るかもしれないことも何でも支援者がやろうとしてしまうなど出過ぎてしてしまうことがあります。でも、主役は利用者の皆さんで私たちはわき役です。周りにいる私たちは、ご本人に対して自閉症の特性や理解だけではなく、人としての魅力や力があること、またご本人を信じるのがやはり大事であることを学んでいます。

参加した研修によって視点や考え方が違いますが、私にとってはどれも有意義なものです。工房の利用者の様子や過去に出会ってきた自閉症の方やそのご家族が浮かんで来たりします。こういう理由でその行動をしていたのかもしれない、こちらの関わりにそういう受け止め方をしていたのかもしれないと思うことが多々あります。その瞬間は、私にとって間違っていたなと思い反省することもあれば、この支援で良かったと確信することが研修の中です。また、その確信を揺らがせることも研修を受けることの意義だと思います。明日からの皆さんとの関わりにつなげていこうと思います。

(畑山)

ヘルパー便り

私がMさんと関わり始めた頃、Mさんは壁や物を強く叩いたり、時にはソファに寝転がって動かなくなってしまったりと、調子に大きく波のある様子でした。特に物叩きは故意にやっているのではなく、近くにいればヘルパーでさえも叩いてしまう状態でした。

ガイヘル中もそのような様子が続き、「女性のヘルパーではMさんの安全を確保しきれない」という意見も出てくるようになった頃、ここで諦めてはならないと、ヘルパー同士で話し合いをしました。そして、Mさんの行動は体調の崩れからきているものなのではないかと考えました。体調の崩れは服薬による影響も考えられたため、ご家族に服薬の調整を依頼したところ、すぐに効果が出始め、日中活動に落ち着きが見られ始めました。ガイヘルも安全に行えるようになり、何よりもMさんの表情に穏やかさが戻ってきて、ヘルパーも安心してMさんと関わるできるようになりました。

現在は、ガイヘルにウォーキングプランなども取り入れ、Mさんの健康の維持に努めています。出勤時はウエストを測って、本人が腹部膨満による苦しさを抱えていないか等、Mさんの体調の変化に気付ける工夫をしています。

Mさんの調子が崩れていた頃、すべてのヘルパーが諦めずに支援を続けたことは、当たり前のように、一部では当たり前ではなくなっていることだと思います。誰もが当たり前障がい者と接することのできる日がくるまで、私たちは今日も、当たり前のことを行っているのだと思います。(佐野)

グループホーム ナウシカ便り

「一気に寒くなりましたね」「あちー」

「ねみー」「寝すぎですよ、もう起きてください」

最近、ナウシカの朝、利用者さんとの散歩中に定番となっている会話です。

ご近所の方にも声をかけていただくことが多くなりました。作品展のポスターの掲示やスタッフが世話をしている菊の花を見てくださった方にも「またあるんですね」「お花きれいに咲いていますね」等の声をかけていただいています。

先日、冷え込んだ日の朝、挨拶を交わしたご近所の方から「寒くなりましたね」と言われた時のことです。一緒に歩いていたAさんは即座に「あちー」と答え、上着を脱いでいました。おそらく返事をされたのではなく、ちょうど日が当たる場所だったため暑いと感じられたのだと思いますが、その偶然の一致に「あら、元気でいいですね」と互いに笑顔を交わすことになりました。

また、いつも散歩中に通り過ぎる会社のそばで「ねみー」との声に「寝すぎです」とつつこむ私の声、それに続いて会社の中から聞こえる笑い声。毎朝のことですが、いつも通りのやりとりが周囲を和ませることにもつながっているのではないかと思います。

こういった何気ない日常の風景に私たちも加われるように、5名の利用者さんとご近所さんとのつながりを深めていけたらと考えています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(野田)

後援会のページ

明けましておめでとうございます。皆様はどの様なお正月を迎えられましたでしょうか。昨年は社会福祉法人「風の谷」をご後援いただきありがとうございました。今年もまた一層のご支援をお願い申し上げます。

利用者の増加に伴って施設スタッフの充実や利用者が安心安全に過ごせる様、環境の継続的改善が必要で、その一助として法人への経済的な支援は重要です。

しかし、それ以上に障がい者やその家族、並びに施設スタッフにとって一番心強いのは、多くの方々から支えられているという“実感”が持てることだと思います。残念ながら、昨年の津久井やまゆり園事件に代表される社会的弱者をターゲットとした暴力行為・いじめ等の事件がその後も起きています。後援会の皆様も同じ思いと存じますが、私は弱者を社会から排除しようと言う考え方に大変憤りと不安を感じます。

現在、本後援会は会員が固定化し、新たな会員の入会があまり見られません。私共後援会役員がもう少し頑張って新たな会員の入会を図り、風の谷支援の輪を更に広げて行きたいと思っております。

入会していただけたら企業や個人にお心当たりがあれば、是非ご紹介くださる様お願いいたします。

最後に皆様にとって今年が平穏で幸多い年になる様、お祈り申し上げます。

風の谷後援会会長 堀田脩司



平成28年9月3日～12月5日現在（五十音順敬称略）

【新規個人】

（相模原市）

川合義正 篠崎繁雄 島森隆夫 津田英隆 野口和代 野崎廣子 村田薫 柳井晶子 柳場秀雄

（横浜市）安藤紀子 石渡和実 清水洋子 （海老名市）有路富夫

（町田市）上城敏明 （世田谷区）済田順子 済田安司

（国分寺市）岩崎秀二 （高座郡寒川町）水田敏弘

（秦野市）大久保禎

【更新団体】

相模原やまびこ会

【ご寄附・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 (有)伸和トラスト ワーカーズキュービック相模原 ドウ・シルフィード
木下謙三 鷺谷廣道 政野大 その他多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345